

☆通知表、気になる評価の決まり方

① これが中学校の通知表です

	観点別学習状況	評価・評定					
		7月		12月		学年	
国語	国語への関心・意欲・態度	A	4	B	3	B	3
	話す・聞く能力	A		A		B	
	書く能力	B		B		B	
	読む能力	B		B		B	
	言語についての知識・理解・技能	A		A		B	
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	B	4	B	3	A	4
	社会的な思考・判断・表現	B		B		B	
	資料活用の技能	A		B		B	
	社会的事象についての知識・理解	A		A		A	
数学	数学への関心・意欲・態度	A	4	A	4	A	4
	数学的な見方や考え方	A		A		B	
	数学的な技能	A		A		A	
	数量や図形などについての知識・理解	A		B		A	
理科	自然事象への関心・意欲・態度	B	4	B	4	B	4
	科学的な思考・表現	A		B		B	
	観察・実験の技能	A		A		A	
	自然事象についての知識・理解	A		A		A	
	音楽への関心・意欲・態度	B		B		B	

観点別評価
A,B,Cの3段階



☆通知表、気になる評価の決めり方

② 通知表の数字(評定)を決める4つの観点別評価

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	観点Ⅳ
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解



授業中にまじめにしているかはもちろん積極的に取り組んでいるかどうか大きなポイント！

観点Ⅱ から観点Ⅳはテスト類が評価の中心。定期テストでは設問ごとにどの観点かが書かれている。例えば80店をとっても観点Ⅳが0点であれば評定「5」は無理かも！

観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	観点Ⅳ
授業観察 ノート 提出物	定期テスト ノート 授業観察 小テスト	定期テスト ノート 小テスト	定期テスト 小テスト

問題集の提出を期限通りするのはもちろん、中身がとっても大事！（P4参照）

☆通知表、気になる評価の決めり方

③ 観点別評価と評定の決定方法

1) 観点別評価

目標の実現状況	判断の基準	評価
「十分満足できる」状況と判断されるもの	<u>80%以上</u>	<u>A</u>
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	40%以上80%未満	B
「努力を要する」状況と判断されるもの	40%未満	C

「A」は80%以上、評定「5」は90%以上、この違いが「AAAA」でも「4」になってしまうことの意味！

2) 評定

目標の実現状況	判断の基準	評価
「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの	<u>90%以上</u>	<u>5</u>
「十分満足できる」状況と判断されるもの	80%以上90%未満	4
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	40%以上80%未満	3
「努力を要する」状況と判断されるもの	10%以上40%未満	2
「一層努力を要する」状況と判断されるもの	10%未満	1

☆通知表、気になる評価の決まり方

④ 具体的な評価の例

□ 「関心・意欲・態度」

期限までに提出するのは当たり前！間違い直しは途中式の直しまでしっかり。普段から気をつけたいことです！

【副教材（学校購入）の問題集】（提出物）

評価基準 A(5点)…間違い直しで**途中式の直しまで**しっかりと行えている。
B(3点)…間違い直しで答えだけ直している。
C(1点)…丸付けの不備や答えに間違いがある。

板書の丸写しだけではだめ。後で見直したときにわかるように工夫して書けるかが大切です！

【ノート】（提出物）

評価基準 A(5点)…**自分の意見も交えて**、分かりやすくノートをまとめている。
B(3点)…板書を分かりやすくまとめている。
C(1点)…重要事項がきちんと書けている。

☆通知表、気になる評価の決めり方

④ 具体的な評価の例

□小テストを用いた評価例

問題：連続する2つの奇数の積に1をたした数は、偶数の2乗になることを証明しなさい。

1) 「おおむね満足できる」(B)

連続する奇数は、整数 n を使って、 $2n-1$ 、 $2n+1$ と表される。

それらの積に1をたした数は、
$$(2n-1)(2n+1) + 1 = 4n^2 - 1 + 1 = 4n^2$$

となり、偶数の2乗になる。

2) 「十分満足できる」(A)

連続する奇数は、整数 n を使って、 $2n-1$ 、 $2n+1$ と表される。

それらの積に1をたした数は、
$$(2n-1)(2n+1) + 1 = 4n^2 - 1 + 1 = 4n^2 = (2n)^2$$

となり、偶数の2乗になる。

たった1行が「A」「B」を決める！
中途ハンパな学習では決して「A」はとれない。どこまで書かなければならないのか、しっかりと先生の話聞いておかないと、わかっているもガッカリする結果になる！